

水辺の 環境



ナガレタゴガエル

アカガエル科アカガエル属 *Rana sakuraii* 流田子蛙

近畿から関東地方にかけての本州中央部に分布するナガレタゴガエルは、1978年2月に東京都奥多摩にある日原川上流で発見され、1990年に新種として記載された比較的新しいカエルの仲間です。体長は39~60mm、体は主に赤褐色～緑褐色をしています。標高1000mまでの山地、溪流を生息域としており、11月頃になると山から溪流へ移動し、水中の石の下などに潜り込んで越冬します。多くの個体は雌雄とも3年で繁殖を開始し、野生での寿命は5年程度とされています。

近縁な種であるタゴガエルとともに、のどから胸にかけて黒褐色の小点が密に分布し黒っぽいこと、指の先端がわずかにふくらんでいることにより、他のアカガエルの仲間と区別することができます。また、タゴガエルと比べると、後ろ肢の水かきが発達しています。特にオスの場合、繁殖期(2月～4月)には皮膚が伸びてブヨブヨの体になるので、この時期に見つけるとすぐに分かります。

環境省が1997年から1998年にかけて実施した種の多様性調査(動物分布調査)では、12都府県で確認されました。その後も、各地で本種の生息確認の報告があり、現在では約20都府県で確認されています。埼玉県秩父市にある浦山ダムや滝沢ダムの周辺の溪流においても、これまでの調査で生息が確認されました。しかし、本種の詳細な分布情報等については未解明な点が多いため、環境省のレッドリストでは、現在、カテゴリの指定はされていません。

2年前に初めて生息が確認された福井県では、県内の水族館で昨年捕獲した個体を飼育しており、今年に入ってから繁殖に成功しました。これは国内の動物園や水族館の中でも初めてのことで、今後、生活史や繁殖生態のさらなる解明が期待されます。

参考文献：「日本動物大百科<全11巻> 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」 平凡社 1996年

「奥多摩産アカガエル属の1種について」 松井孝爾・桜井淳史 爬虫両生類学雑誌 Vol.7, No.4, 1978年

環境省自然環境局 生物多様性センター インターネット自然研究所ホームページ

越前松島水族館ホームページ

生物多様性調査 動物分布調査報告書(両生類・爬虫類) 平成13年10月 環境省自然環境局生物多様性センター